



お品書き

【その巻】CODEレター VOL.26
【その式】「主婦と国際協力」ちらし
【その参】パキスタン支援募金のお願い

以上

CODE

Letter

2005.11.24 VOL. 26

(特活) CODE海外災害援助市民センター発行
〒652-0801 神戸市兵庫区中道通2-1-10
TEL : 078-578-7744 FAX : 078-574-0702
e-mail: info@code-jp.org URL http://www.code-jp.org/
郵便振替 : 00930-0-330579

「エイズとの闘い、及びホワイトバンド運動」講演会

林 達雄 医師

(特活) アフリカ日本協議会(AJF) 代表理事
「ほっとけない 世界の貧しさキャンペーン」代表委員

11月13日、林達雄さんによる「エイズとの闘い、及びホワイトバンド運動」講演会が、神戸復興塾、アート・サポート・センター神戸、CODE海外災害援助市民センターの主催により、ひょうごボランティアプラザで開催されました。以下はCODEの飯塚によるその講演の一部要約です。

1985年、干ばつのエチオピアに出かけました。食べ物がなく、体が弱っているため、人々は風邪や下痢などで死んでいきます。お墓を作るのが追いつかなくて、墓掘りのためだけに20名の現地スタッフを雇ったほどでした。その時に私は気が付きました。村中の人たちが平等に命を落とすわけではありません。もともと弱い人、貧しい人から順番に死んでいきます。社会的に立場の弱い女性や財産を持たない人、子どもや老人などの体力のない人から、あらかじめ定められていたように順番に死んでゆきます。災害が発生した時に駆けつけるだけでは十分ではありません。不公正な社会のあり方や「貧困」の問題に取り組まない限り、人々を救えないことを知りました。

世界では3秒に1人の割合で貧しさのために、9秒に1人の割合でエイズのために人が死んでいます。過去20年間アフリカはますます貧しくなりました。戦争があったわけでもないのに、アフリカのある病院の乳児死亡率は20年前と比べて高くなっていました。学校に行けない子どもの数も増えています。「債務問題」が原因です。先進国から借金の返済を迫られたアフリカの政府は、医療や教育の質を低下したのです。「貧しさ」とはお金がないことではありません。誰にでも必要な社会的なサービスの悪化が病気や死を招きます。アフリカの貧しさの原因はアフリカの政府だけにあるのではなく、日本を含む先進国の政府にもあることを知りました。

2005年世界72カ国で同時に「ほっとけない 世界の貧しさキャンペーン」が始まりました。世界中の多くの人たちがホワイトバンドをつけてその意志を世界に示すことで、貧困問題の解消に積極的に取り組むように各国政府や国際機関に訴える大規模なキャンペーンを展開しています。日本でもすでに400万本のホワイトバンドが売れ、世界では、国際通貨基金(IMF)、G8、世界銀行が返済不可能な18カ国の最貧国への債務帳消しを発表しました。ホワイトバンドの成果は確実に出ています。さまざまな批判もありますが、ホワイトバンドは貧困撲滅に取り組む合図です。世界のまずしさは克服することができます。この世界にはそのための資源や情報がすでにあります。必要なのは「貧困を世界の最優先課題にする」という意志をもつことです。世界のGNPの14%を占める日本は、世界の未来に大きな影響力を持っています。この日本の政府が国際政治で責任を果たせば、世界の貧困の問題は解決に向けて進みます。

アフリカでエイズや貧困の現実と直面して途方にくれていた時に、「アフリカのために何をすれば良いのか？」と友人にたずねました。アフリカ人の友人は答えました。「日本を変えてくれ、日本の人口1億2千万人を動かしてください。」と。そのためには、多くの人にアフリカの現実を、世界の現実を知ってもらう必要があります。アフリカのエイズ感染者たちが世界の誰もがエイズ治療を受けられるための運動をおこし、世界に希望を与えました。私は直腸ガンにかかっていたのですが、アフリカに関わり取り組んでいるうちに元気になりました。アフリカを知れば、あなたも元気になる。私はつらい悲しい話をあなたにしたいわけはありません。私たち、日本人が忘れかけている勇気や希望を思い出してほしいのです。

パキスタン北東部地震

パキスタン北東部で、10月8日現地時間午前8時50分に7.7(M)の強い地震が発生しました。地震による死者は7万3千人を越え、重傷者は約7万人にのぼる(11月18日UNOCHAより)。

CODEは、パキスタンとインドで緊急支援を行っている日本国際ボランティアセンター(JVC)とインドで現地NGOであるSEEDSを支援しました。それぞれの活動は以下のとおりです。 ジャンム・カシミール地方(提供 SEEDS)



・JVC: パキスタンのマンセラ郡バラコットで、ビニールシート・毛布等、300家族分(約2000人分)の配布。
・SEEDS: インドのジャンム・カシミール地方プーンチで100張りのテントと500枚の毛布、200個の家族パックを支給。

今後中長期的な復興支援を見据えて、11月25日から12月4日まで、CODEのスタッフ2名をパキスタンに派遣します。皆様からのご支援、ご協力をお願いいたします(同封ちらし参照)。

セミナー案内

寺子屋セミナー「予防防災」

「予防防災」をテーマに、独立行政法人消防研究所の理事長で、CODEの副代表理事である室崎益輝理事長を講師に迎えて、11月26日から全3回の寺子屋セミナーを開催します。このセミナーをとおして、世界中で次々と発生する災害に対して、ただ傍観するだけではなく予防防災についての知識を深め、取り組んでいくきっかけになればと考えています。

- ・第1回 11月26日(土) 13:30~15:00
「マルチハザード時代における予防防災の重要性」
- ・第2回 12月10日(土) 13:30~15:00
「予防防災の課題と安全・安心まちづくり」
- ・第3回 12月17日(土) 13:30~15:00
「予防防災における公衆衛生としての共生と連携」
会場はいずれも人と防災未来センター、参加無料。

NGOことはじめ「国際協力と私」

CODEが毎年行っているNGOことはじめセミナーは、今年度「国際協力」というテーマで、第7回に渡ってJICA兵庫、日本国際連合協会兵庫県本部、(財)兵庫県国際交流協会と主催しています。第1回から第5回は無事終了し、第6回と第7回は現在申し込み受付中です。

- ・第6回 12月1日(木) 14:00~16:00
「主婦と国際協力」(同封ちらし参照)
- ・第7回 12月14日(水) 18:00~20:00
「ボランティアと国際協力」

講師に日本国際ボランティアセンター(JVC)の代表

理事である熊岡路矢氏をお招きして、CODEの村井がコーディネーターをつとめます。

会場はいずれもJICA兵庫、参加無料。

上記2つのセミナーのお申し込みはCODE事務局まで、お名前、ご所属、電話番号、参加希望の回をお知らせ下さい。

9月、10月の活動記録 9/1~10/31

- 9/9 第1回国際協力セミナー(飯塚・斉藤)
 - 9/11 セプテンバーコンサート(島田理事・飯塚・斉藤)
 - 9/14 ジャパンプラットフォーム5周年記念シンポジウム関西参加(村井・飯塚・濱田)
 - 9/17 コープこうべ「被爆・終戦60年イベント」参加(コープこうべ関係者・飯塚・斉藤)
 - 9/18 ボランティアの日(飯塚・斉藤)
 - 9/22 第2回国際協力セミナー(斉藤)
 - 9/22~26 タイでの「津波アジアNGO国際会議」に参加(村井・飯塚)
 - 10/1 アルジェリア記者取材(芹田代表理事)
 - 10/1 IMADR-JC企画・運営シンポジウム「災害復興を通じて考えるマイノリティの連帯」報告(村井)
 - 10/3 シルバーアドバイザー養成講座講演(村井)
 - 10/7 第3回国際協力セミナー(飯塚・斉藤)
 - 10/8 パキスタン北東部地震発生(M7.7)
 - 10/11 兵庫県立舞子高等学校環境防災科講演(村井)
 - 10/15 ボランティアの日(飯塚・斉藤)
 - 10/15 ブレーンヒューマニティーパキスタン支援街頭募金(濱田)
 - 10/17 CODE理事会
 - 10/22 神戸学院大学ボランティア活動基金(VAF)パキスタン支援街頭募金(飯塚)
 - 10/28~30 住民参加型災害復興研修参加(飯塚)
- *多くの団体がパキスタン地震の募金活動をしてくださいましたが、CODEのスタッフが参加した分のみを掲載しております。

ありがとうございます 9/11~11/10

会員・寄付者ご芳名(以下順不同・敬称略)

一般寄付

個人: 谷口佳子、和田龍太郎、塚本謙三、濱田久紀、島田誠、雪岡恵津子、長谷明子、岡本牧子(以上兵庫県)、小林拓也(東京)、大星顕史(徳島)

会員

正会員: 室崎益輝(東京都)、黒田裕子、水野雄二、島田誠(以上兵庫県)

賛助会員 個人: 福原洋子、市丸仁一、江口節、濱田久紀、田辺正則(以上兵庫県)、古木京子(東京都)、高橋優紀(神奈川)、窪田由紀(大阪)

団体: コープこうべ、神戸YMCA